

## 2023年度 日本インターンシップ学会東日本支部 第1回研究会報告

報告者 手嶋慎介（東日本支部運営委員）

2024年2月10日（土）14:00より2023年度第1回研究会を対面とオンライン（Zoom）のハイブリッド形式で開催いたしました。当日は、全国から26名（対面参加11名、オンライン参加15名）の大学教職員、民間企業など多様な皆様に参加いただきました。

第1回研究会は、2023年度の支部研究会のテーマである「インターンシップ研究における共創」に基づき、株式会社Criacao（クリアソン） 峰尾隼人氏と阿部雄太氏からの「クリアソン新宿の取り組みについて」講演をいただきました。その後、支部長の松坂暢浩先生（山形大学）がコーディネーターとなり、株式会社Criacao（クリアソン）と連携する大学から牛山佳菜代先生（目白大学）も加わり、「インターンシップを通じた大学・企業・地域の共創」に関するパネルディスカッションが行われました。地域振興・課題解決型サッカークラブとして、新宿区4大学合同5days インターン、地域貢献やリーダーシッププログラムなど、学生の具体的な活動の様子なども交えながら、本当にたくさんの活発な質疑応答が行われました。

また、自由研究発表では「米国大学における一般的な教育効果のアセスメント手法について～日本におけるインターンシップ教育への適用可能性を探る～」と題して、藤原宏司先生（山形大学）、山本幸一様（明治大学）、山本美奈子先生（山形大学）、松坂暢浩先生（山形大学）にご発表をいただきました。米国の大学で広く使われている教育効果に関する2種類の指標（直接指標、間接指標）についての概観、それらの日本におけるインターンシップ教育改善への適用可能性が示されました。近年、学習成果や教育効果を可視化し、教育改善へ繋げることが強く求められている参加者にとって関心が高い内容であり、今後の研究会や、東日本支部が担当となる9月での年次大会（於：愛知東邦大学）など、継続した発表をお願いしたい内容でした。

研究会後の参加者アンケートには、12名の参加者から回答があり、研究会の満足度は「大変参考になった」「参考になった」あわせて100%でした。感想としては、「今回の講演は、企業と大学がともに作り上げていくまさに「共創」のインターンシップであると感じた」「受入先企業様からの産学連携の具体的な話だけでなく、今後の課題やそれに対するアプローチなど、参加しないと得られない情報が得られた。」などのコメントがありました。また、自由研究発表における反響も大きく、続編を希望するコメントがありました。次回3月の第2回研究会（オンライン開催予定）も、引き続き「共創」をテーマとして、内容を検討したいと考えております。

